

未来に向かって その7

昨年の10月12日から、5か月が経過しました。あの水害の恐怖から、街は少しずつ立ち直りつつあるように見えますが、人々の苦しみは心の中に大きな傷となっていて残っています。

様々な施設にいるお年寄りや、まだ復旧のめども立たず、土砂に埋もれたままの建物もある中、子どもたちの声が戻ってきたのを心の支えに生きております。私は、きちんと前を向いて人々の心をおもんぱかって生きてきたのでしょうか。何かをきちんと残してきたのでしょうか。子供たちに正しき道を伝えることができたのでしょうか。校長室に来て勉強していた小学生にチョココロネのパンだけで、たくさんの愛を惜しみなく与えなければならなかったと反省しています。

何をよすがに、なにをもって人に与えることができるか、自問自答する日々です。

いつも何度でも

作詞：覚和歌子 作曲：木村弓

呼んでいる 胸のどこか奥で
いつも心躍る 夢を見たい
かなしみは 数えきれないけれど
その向こうできっと あなたに会える
繰り返すあやまちの そのたび ひと
ただ青い空の 青さを知る
果てしなく 道は続いて見えるけれど
この両手は 光を抱ける
さよならのときの 静かな胸
ゼロになるからだ 耳をすませる
生きている不思議 死んでいく不思議
花も風も街も みんなおなじ
呼んでいる 胸のどこか奥で
いつも何度でも 夢を描こう
かなしみの数を 言い尽くすより
同じくちびるで そっとうたおう
閉じていく思い出の そのなかにいつも
忘れたくない ささやきを聞く
こなごなに砕かれた 鏡の上にも
新しい景色が 映される
はじまりの朝の 静かな窓
ゼロになるからだ 充たされてゆけ
海の彼方には もう探さない
輝くものは いつもここに
わたしのなかに 見つけられたから